

社会福祉法人尾道さつき会 尾道福祉専門学校
令和6年度 第1回教育課程編成委員会議事録

1. 日時 令和6年12月26日(木) 13:30~14:30

2. 場所 尾道福祉専門学校 オンライン会議

3. 出席者

社会福祉法人泰清会 サンライズマリン瀬戸 施設長 久保田あけみ氏
株式会社ゆず 代表取締役 川原奨二氏
尾道福祉専門学校 校長 邑岡志保
尾道福祉専門学校 教務主任 重岡秀和

4. 報告事項

(1) 学生動向について(邑岡)

- ・本校の定員充足率57%、60%を超えないと収支が上がらない。現在2回の入試が終わり、昨年同年度比では微増となっている。65%を確保して安定した運営につなげたい。
- ・2026年度からは、ミャンマーから8~10名の留学生を見込んでいる。
- ・入学生については、広島市内もしくは県外へ流失している。入学実績のある愛媛への広報を行っている。

(2) 前期授業実施経過について(重岡)

- ・コロナ5類となり、オンライン授業はほぼ行っていない。感染対策としてのオンライン授業の必要性はなくなってきたが、現場では、オンライン会議や研修会のオンライン開催が行われていることから、オンラインを活用した授業展開を今後も継続して行う。介護実習時にコロナウイルスの抗原検査を実施している。現場での意見をお伺いしたい

(川原)

- ・職員にも実施はしていない。飲食はじめ行動制限も行っていない、必要ないのでは。それより、しんどい時や調子の悪い時は、正直に報告できることが重要。

(久保田あ)

- ・事業所ごとにはやっている時は行っているが、基本的には必要ないのではないかと思う。やはり、しんどい時等に報告できることが大切。

(3) 行事、カリキュラムについて(重岡)

- ・1・2年交流会行事、秋の運動会、ハロウィン、クリスマス会等学生委員が中心になって行事運営を行っている。学生の自主性や行事運営についても学ぶ機会としている。

今まで、この教育課程編成委員会でも話題として取り上げていただいたが、個人のペースに合わせた学習のしくみについて、今年度から、学生個人の力量に合わせ2年過程のところを3.4年の期間で科目の履修がしやすいように、3年目以降にかかる学費等の負担を減らし、例年なら退学していたかもしれない学生の履修環境・カリキュラムを調整した。最高12科目再履修が必要な学生も慣れたクラスメイトと一緒に2年に上がりながら、1年の科目の履修ができる方法を選択して在籍している。このような学生3名が2年生に在籍しながら、1年次の介護実習や科目の履

修をしている。介護福祉士になりたいという初心の継続の支援の1つの整備となっているかと思う。

(4) 実務者研修の実施状況について (重岡)

・今年度は10名の受講であった。来年度は年明け広報予定。

(久保田あ)

・三原市のポポロを会場にホットワールドが行う。会場が近い方が行きやすいのでは。

5. 意見交換

(校長)

・外国人介護導入講習を実施している。来年度は毎月1~2回ペースで行う。

・来年度から外国人介護福祉士国家試験受験対策講座を実施する。養成校への要望あれば教えてほしい。

(川原)

・国家試験対策講座は、施設へのアプローチだけでなく、管理団体がやっている国家試験対策もあるので、そちらに広報しておいしいのでは。福祉の教員による指導という事でブランド力はある。

(久保田)

・現場は日本語が大変だと思う。オムツ交換あの人は3回だが私は2回しかしていないと意欲的。介護福祉士を取得していない日本人もいる。会場が尾道福祉だと遠くて行けない出前講座があれば、研修計画にあげて、ベテランと新人と一緒に学ぶことが出来る。

(川原)

・40名外国人がいる。労働のために来ているため、全員が同時に参加できない。

1/5程度しか参加できない。

留学生について

(川原)

・留学生について、日本語は自社でしないのか。またいくらかかるか

(校長)

・当初日本語学校のこと視野には入れていたが、講師確保等の関係で見送っている。今回の支援法人を通じた留学生について2025年4月より、日本語学校で学び2026年4月より、本校へ入学する。授業料については、本校学生と同額かかる。生活に係る諸経費を今後支援法人に負担をしてもらう。また、次年度以降の支援法人についての問い合わせをたくさんいただいている。

(久保田あ)

・外国人は3年したら帰られる人が多い。寮の問題もある。2人部屋もあり、なかなかプライバシーが確保できない。住む場所もネックになる。

校長) まとめとして貴重なご意見を今後生かしていく。2回目を2月あたりに開催予定とする。